

アメリカにおける One Health Research の発展と展望 (第3報)

The further prospects for One Health Research in U.S.A (The 3rd report)

笹岡 香織¹, Jonna, A.K. Mazet², 石井 猛³
 Kaori Sasaoka¹, Jonna, A.K. Mazet², Takeshi Ishii³

- 1 カリフォルニア州立大学 デービス校、獣医学部、獣医学科、獣医予防疫学
ワシントン州立大学、獣医学部、獣医学科、Global Animal Health
- 2 カリフォルニア州立大学 デービス校、獣医学部、獣医予防疫学教授、
Wildlife Center 長、One Health 理事長
- 3 岡山理科大学

- 1 University of California, Davis, D.V.M., MPVM, and Washington State University,
School of Veterinary Medicine, School for Global Animal Health
- 2 University of California, Davis, School of Veterinary Medicine, D.V.M., MPVM, Ph.D.,
the director of Wildlife Health Center, and executive director of One Health Institute
- 3 Okayama University of Science

2011年4月19日、UC Davis にて California における Global Health の現状報告会が行われた。

Mazet 教授によるデービス校の One Health への取り組みと現状報告会が行われた。この学会では、UC Davis のみならず UC Berkley、UC San Francisco に加えて、Stanford University、Touro University、Samuel Merritt University、University of San Francisco の3校も参加することになり、盛大な学会になった。

各大学の Global Health に関連する環境、移民、難民問題、One Health への取り組みが報告された。開催時期が東日本大震災の直後ということもあり、環境、移民、難民問題ではインドネシア等の災害の影響と同じように、日本の地震による被害状況をアメリカの専門家の観点からまとめた発表があった。被害状況の写真が映し出されると、会場内から大きなよめきが起き、アメリカでも大きな関心を集めていることが伺いしれた。

Mazet 教授からは、One Health の UC Davis での取り組みの経緯ならびに現在の研究結果が報告された。その中で、前回の Global Health 学会で確認された原因不明の出血熱は黄熱であったことが確認され、

早期に発見、さらなる疾病の拡大を阻止することができたことが報告された。それにより、今後のスミソニアン研究所との共同研究も開始されることが発表された。この共同研究により、疾病の発見、追跡に必要なコンピューター解析の改善も実施予定であり、さらには東南アジアにおける One Health 研究の開始も行われることが発表された。

Mazet 教授は、2011年に International Wildlife Disease Association and American Association of Wildlife Veterinarians より、野生動物の疾病の管理、保護ならびに政策への貢献者として、一番高い賞である Thorne Williams 賞を授与され、One Health 分野におけるさらなる発展が予想される。

また、日本の北海道大学の医学部、獣医学部と帯広畜産大学の One Health の共同研究が実施されることとなり、文部科学省のリーディングプログラムの一環として、疫学を含めた One Health プログラムがたちあがった。これにより、日本においても One Health に観点を置いた研究の発展が期待される。

今回の Global Health 学会では、人口問題、女性の権利問題に主体をおいた内容が、2月に実施される予定である。